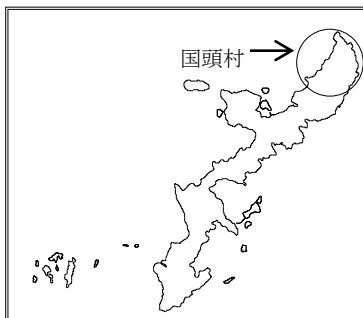


復活！ 国頭定置網

国頭漁業協同組合
村 田 佳 久

1. 地域の概要



図：沖縄県国頭村の位置

国頭村は、沖縄本島の最北端に位置し、東は太平洋、西は東シナ海に面しており、その大半が山野で占められる大変自然豊かな村です。

那覇市から約 100km、名護市からは約 30km に位置し、沖縄本島一の高さを誇る与那覇岳（標高 503m）と最大の水量を誇る比地大滝（落差 25.7m）を有しています。

また、北部の森（通称やんばるの森）の山頂付近は変化に富んだ地形を有し、温暖な黒潮の影響を受けることから年間を通じて霧が発生し、豊かな自然を育んでいます。

2. 漁業の概要

私が所属する国頭漁業協同組合は、組合員数が 105 人（うち正組合員 77 人）で国頭村と隣接する東村の 2 村の漁業者で構成されており、沖縄県内では石垣市にある八重山漁業協同組合に次ぐ広い共同漁業権漁場を有し、主力であるソデイカ漁業の他、潜水器漁業、パヤオ漁業、延縄、定置網、刺網等が行われています。養殖業では海ぶどうやモズク養殖も行われています。また、平成 25 年の年間水揚量は 237 t、水揚金額は 1 億 5,884 万円となっています。（図 1, 図 2）

3. 研究グループの組織と運営

定置網漁業は国頭漁協の自営事業として行われています。私は漁労長として現場での操業と運営を担っており、現在は 5 人のメンバーが従事しています。

操業を開始した平成 24 年当初は冬場ということもあり魚がほとんど入らず、1 月から 3 月までの給与が一人当たり 10 万円未満と非常に厳しく、メンバーも 6 人いましたが、うち 2 人が「肉体的限界」「給与と労働の乖離」という理由により最初の 3 ヶ月で離職、うち 1 人が翌年の 9 月に「他漁業種への転向」のため離職するという状況でした。

このため、平成 25 年 4 月には一般社団法人「全国漁業就業者確保育成センター」の事業を活用し、1 人の雇用を試みましたが、年齢が若く他にも仕事を経験したいとのことで継続雇用には至りませんでした。一方、モズク養殖でも同じ事業を活用し 2 人を雇用していましたが、平成 26 年 8 月で事業が終了したので、定置網漁業への就業を

打診してみました。すると、2人の就業意欲は強く、普段の仕事ぶりも見ていたのですぐに採用することにしました。

また、運用面では水揚げ収入の全てが漁業収入となるのではなく、漁協への手数料5%と操業経費を引いた残りを、組合20%、定置グループ80%の割合で配分しています。その後、定置グループの各メンバーには最低賃金プラスアルファの形で支給します。プラスアルファの部分についてはメンバーの経験値や従事した作業内容を加味するため個人ごとに異なってきます。そして、漁獲が多い時には全体の収入も増加しますが、同様に全額を分配するのではなく、翌月の操業を見越してある程度ストックするようにしています。このため、翌月が不漁であっても前月までのストックで補うことが可能となり安定した収入が確保されます。このようにしてメンバーには毎月15万円程度の給与が支給されますが、ストック額がある程度大きくなれば、ボーナスという形で追加支給しています。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

私は埼玉県出身で昭和60年に沖縄にやってきました。仕事は国頭村のホテルに就職し、接客業の他にダイビングインストラクターの業務に携わりました。また、職場では設立当初より地元住民との間に交流があり、私もプライベートでは国頭漁協の漁業者たちとたびたび酒を酌み交わす機会に恵まれました。

そのような中、平成元年に現組合長からホテル側へ定置網操業への人的支援の打診があり、私が2ヵ月ほど出向することとなりました。その間はホテルに出勤後すぐに港に向かい、定置網の側張りを設置するための土嚢作りや網入れ、網上げ、網替えの作業を行いました。当時の定置網は規模が小さく現在と同じ場所にありましたが、クレーン等の機械がなかったため作業は10人ほどの漁業者が手作業で行っていました。

また、出向期間中ではありましたが、私の本職がホテル業ということもあり、漁業者に許可を得て操業が休みの土日限定で「網の中を巡る体験ツアー」というものを試みました。そうして出向期間は瞬く間に終わりましたが、昔から漁業には興味があり、いずれは漁業で生計を立てたいとの思いがあったので、上司の了承を得て、ホテル業と兼業で手伝いを続けることにしました。けれども、非常に残念な事に1ヵ月後に沖縄に襲来した台風の影響により定置網は大破してしまいました。

その後、定置網再開に向けた話し合いが行われましたが、設置には莫大な費用がかかるということで再開は断念されました。しかしながら、定置の水揚げで目にした漁港の活気溢れる風景を忘れることができず、漁業者と会う度に再開について話し合ってきました。そうしているうちに漁業への思いはますます強くなり、平成17年には漁協支部への加入を決断し、ホテル業と兼業で潜水器漁業と一本釣漁業に従事することにしました。また、その3年後には正組合員への加入をきっかけにホテルを退職して漁業一本で生計を立てることにしました。

漁業へ転向後も定置網への思いは変わりませんでしたが、何の進展もなく2年がたとうとした時、突然、網メーカーが定置網の見積書を持って漁協へ営業にきました。その話を聞き、漁協で見積書を見せてもらいましたが、予想どおり莫大な金額で、あらためて再開への道のりが厳しいことを認識させられました。

ところが、その2ヵ月後に国頭村から漁協に補助事業募集の話がありました。手元にはタイミング良く見積書があり、漁協としてもこれまで再開を強く望んできたことから、定置網が事業として採択されました。そして、翌年、平成24年1月に23年ぶりに念願の国頭漁協の定置網が復活しました。

5. 研究・実践活動状況及び成果

定置網による水揚げは平成24年に23t（1,595万円）、平成25年に32t（1,784万円）と順調に推移しています。（図3）

操業を開始した当初は水揚げされた魚を食用として販売していましたが、より良い魚を提供したいとの思いから、メアジ等の小魚も水氷に入れるだけでなく、全て活け締めにしてからセリに出しました。ところが、始めてから数ヵ月後には国頭の定置の魚は見た目が悪いという噂を耳にしたため、努力が報われないまま、活け締めすることをやめました。

しかしながら、このまま何もしないのはもったいないと考え直し、私たちの取り組みを理解してくれる人を探して、活け締めだけでなく要望に応じて神経締め等も施して販売することにしました。その結果、現在では複数の仲買が購入してくれるようになり価格も以前よりも高くなりました。一方、アオリイカは活で出荷を行っています。割烹には出す際は200～300gの小型のイカを酸素充填した袋に詰めて出荷することもあります。鮮魚では1,000～1,200円/kgの価格帯ですが、活では約2倍の2,000円/kgの値が付くこともあります。

また、定置網にはサメ・エイ類を主とした食用以外の魚も入ります。可能な限り活用していこうと決めていたので、観賞用魚での販売も検討しました。

まず、取り扱いをしてくれそうな本部町にある「沖縄美ら海水族館」へ相談に行きました。すると、同水族館では、平成24年10月から管理運営を担っている財団が、一般財団法人「沖縄美ら島財団」へと変わり、独自での販売業務が可能となったとのことで、ちょうど、観賞用魚の取り扱いを検討していた事もあり、利害関係が一致し業務提携することになりました。そして、その第一陣として韓国チェジュ島にある水族館に観賞用魚を販売することになりました。その後も販売先は拡大し、国内では名古屋や大阪、東京の水族館でも販売が行われるようになり、観賞用魚の水揚げは平成24年度1,667kg（265万円）、平成25年度6,223kg（844万円）と順調に伸びています。（図4、図5）また、出荷の際には財団職員と共同で作業を行うため、観賞用魚にダメージを与えない正しい技術も学ぶことができました。

この他、現在では定置網を活用した観光（体験）漁業も行っています。きっかけは、定置網導入が補助金によるもので、税金で賄われているということでした。このため、地域住民にも少しでも還元したい、さらには、地元の子供たちに漁業に興味をもってもらい、将来的には国頭の漁業者になってほしいとの思いからでした。開始当初は地元の小学生や子供会を無償で受け入れる形で行っていましたが、その後は地元ホテルから定置網を観光で活用したいという強い要望があり、今後の安定した経営も考慮し、観光漁業としてメニュー化することにしました。

そして、運営は一社だけでは窓口が狭いと思い、定置観光に興味を持っていた村の

第三セクターにも話を持ちかけ、漁協、ホテル、第三セクターの3者体制をとりました。平成24年は料金を大人2,000円、子供1,000円と設定していましたが、平成25年は4,000円、子供3,000円に変更しました。また、利用客の予約はスカイドライブというパソコンソフトを使い、クラウド上にファイルを置いて運用しています。予約を受けた各所属の担当者はそのファイルに内容を書き込み、入力後には他の担当者へメールを流し、二重予約などのミスを防ぐ仕組みをとっています。

利用状況は平成25年度197人、料金収入36万円、平成26年度(10月現在)208人、料金収入35万円とほぼ横ばいで推移しています。(図6)

また、利用客の大半は家族連れの方ですが、漁協仲買の紹介で県内に15店舗を有する飲食関係の方たちが参加される機会がありました。この方たちにはツアー体験終了後に定置網でとれた新鮮な魚を刺し身で提供しました。鮮度の良さが大変評価され国頭の定置で捕れる魚をメインにした新店舗建設の話が持ち上がりました。そして、平成26年11月には沖縄県宜野湾市に私たち定置の名前を冠した「国頭漁港定置網活魚生け簀の銀次」というお店が誕生しました。店は連日盛況のようですが、店舗の仕入れのメンバーには、良い関係を続けていくためにお互い無理な事は言わず、腹を割って一緒に頑張っていこうと話をしています。

このように定置網を活用した取り組みは広がりつつありますが、一番の要因は周りの人たちに恵まれ、良い関係が築けた事だと思っています。今後もこれらの関係を維持・発展させながら、幅広くアンテナを張り、さらなる活用を図って行きたいと考えています。

6. 波及効果

定置網に入る食用以外の魚を、観賞用魚として販売できるようになってからは、延縄や刺網漁業などで未利用だった魚も販売できるようになり、漁業経営安定化の一助となっています。また、定置網等で捕獲されない魚の注文が入った時には、平成21年から操業が再開したアギヤー(追い込み網)により魚を捕っています。このように、定置網漁業から始まった観賞用魚の販売が、漁業者の経営安定や伝統漁法の継承の維持にも役立つなど漁協全体へ広がりを見せています。

7. 今後の課題と展望

定置網には大量に魚が入る時があります。餌用で冷凍して使えるものもありますが、地元の小さいセリでは全てさばくことができません。このため、グルクマやダツ、ミジュン等の魚は2次加工の検討が必要となっています。しかしながら、村西部の定置網だけでは安定した供給が困難なため、まずは試作品を作製し、大量生産の可能性がでてきた場合には新たな定置網の設置を検討していきたいと考えています。

また、村東部の港にはマグロやカンパチが入って来るのが目撃されており、近くの刺し網には50kgほどのマグロがかかることがあるなど、次期定置網漁場として期待されています。

【平成25年度 国頭漁協の年間水揚量及び水揚高】

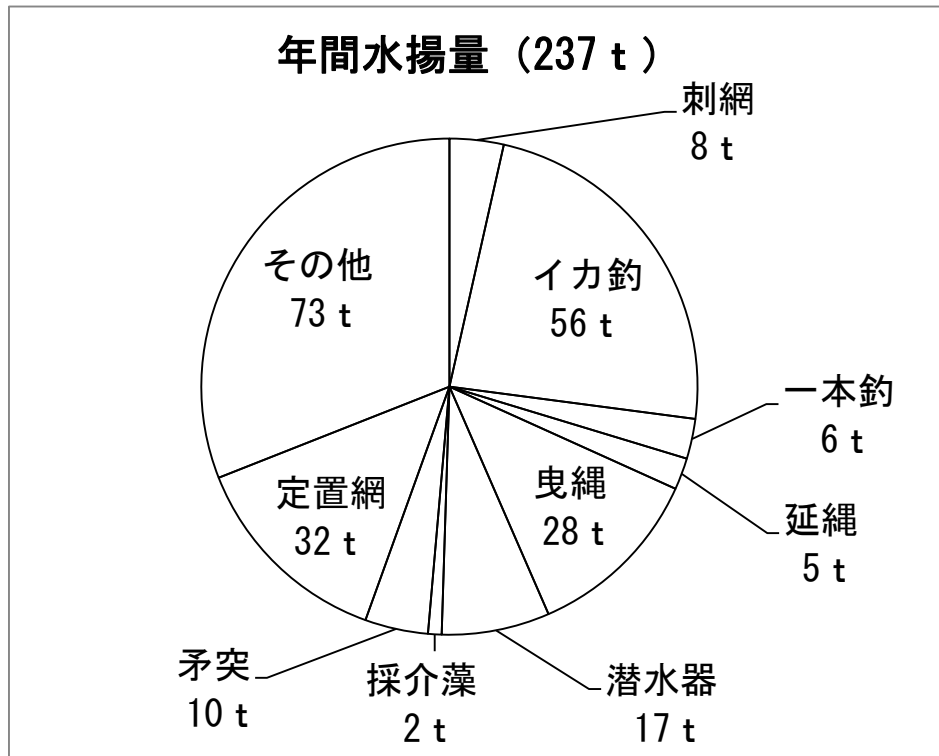


図 1)

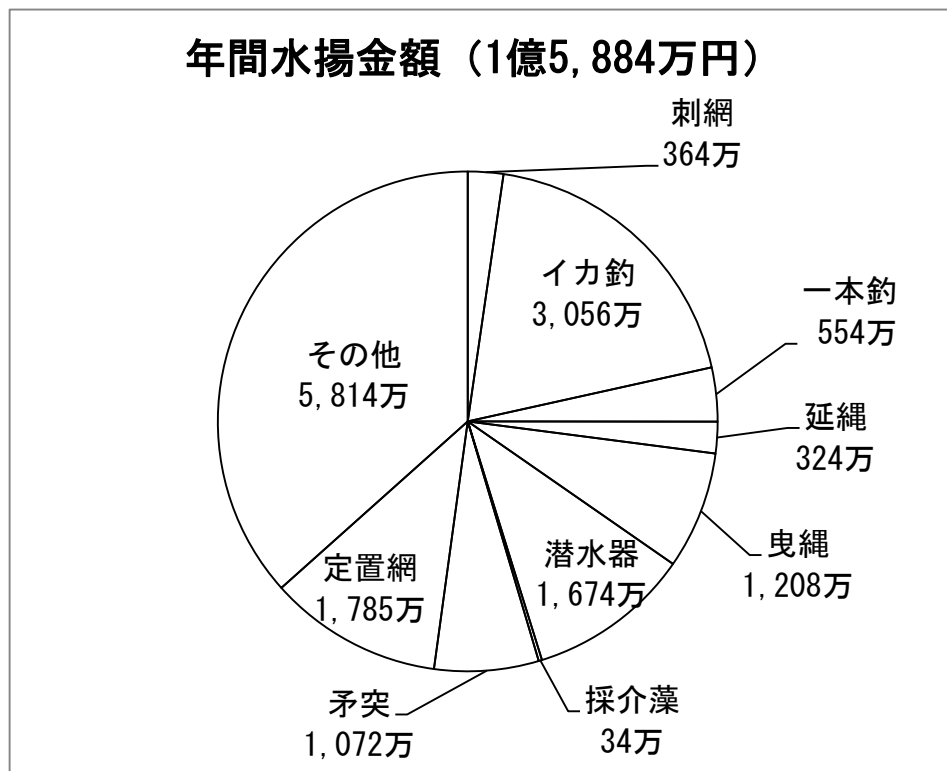


図 2)

【定置網で採捕される食用魚】



【観賞用となるサメやエイ類】



【沖縄美ら海財団との業務提携】



【定置水揚の推移】

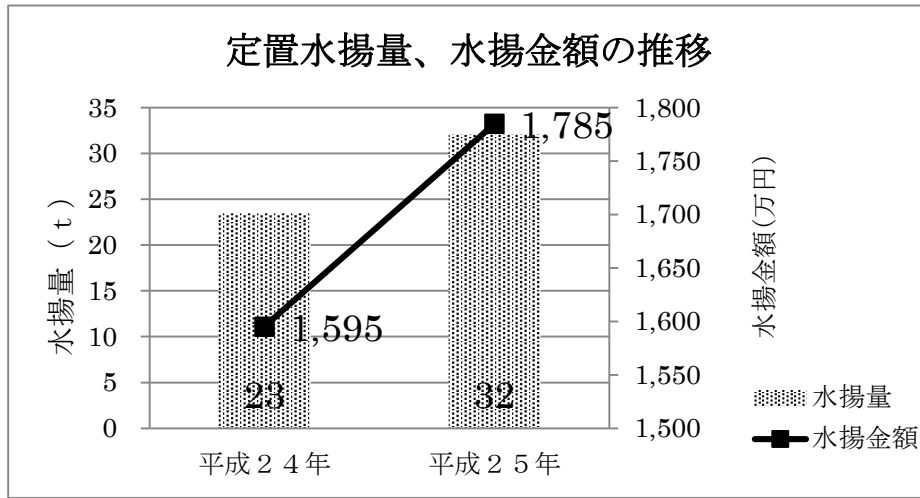


図 3)

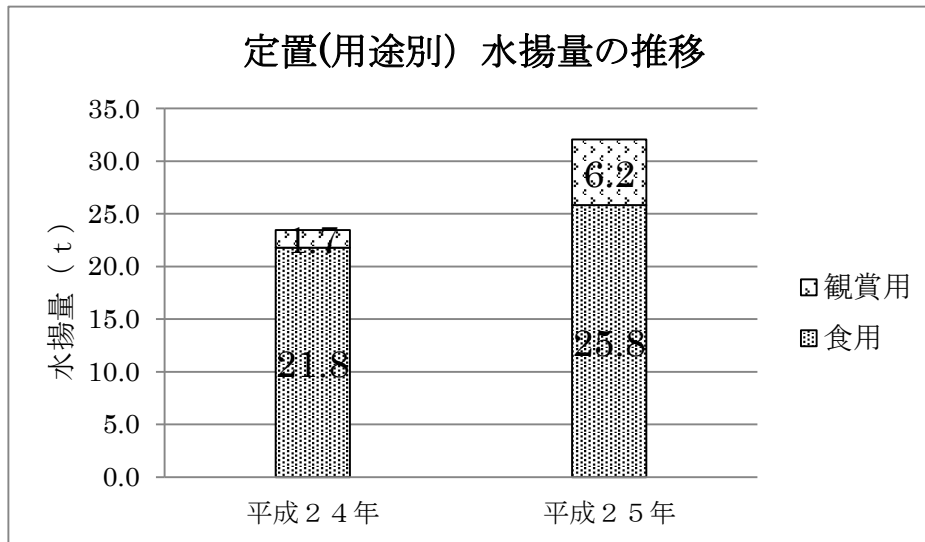


図 4)

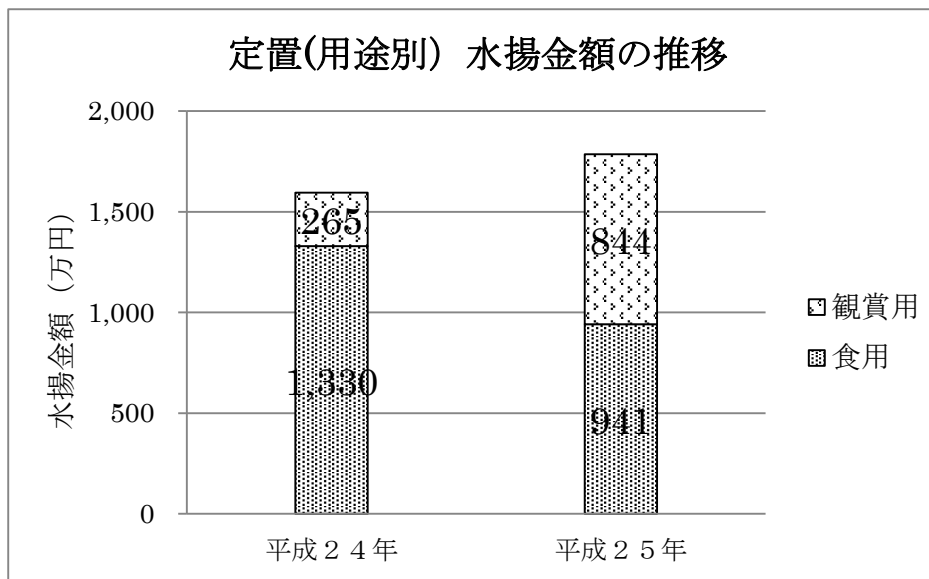



図 5)

【観光漁業としての活用】



**国頭漁協プレゼンツ！ 定置網漁見学ツアー
参加者募集！！**

開催日：2013年 8月24日(土) 定員20名 午前7:00～午前10:00まで
2013年 8月25日(日) 定員20名 午前8:00～午後11:00まで

参加料：大人 2,000円、子供 1,000円

募集期間：平成25年 8月16日(金)まで

行程内容：8/24 定置網漁見学、朝食付き
8/25 定置網漁見学、朝食付き

※詳しい内容は、国頭村のHPに掲載しています。

申込方法：国頭村のHPから、参加申込書をプリントし、必要事項を記入の上、FAXにて送信してください。

申込先及びお問い合わせ先

国頭漁業協同組合 イベント担当：斉藤まで
TEL：0980-41-5101
FAX：0980-41-5809
E-mail：jfk-h.saito@yanbaru-ichiba.com


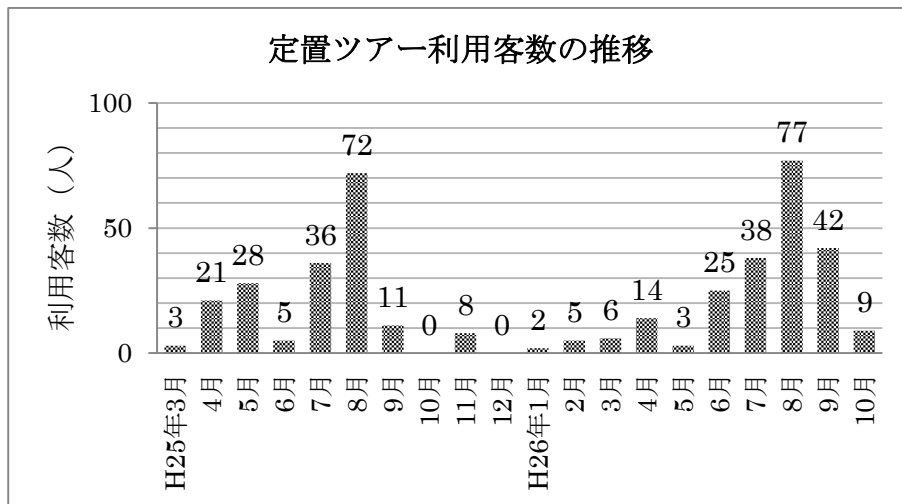



図 6)